

文化芸術推進計画策定の検討の視点 意識調査、ヒアリング、上位関連計画や市の文化芸術施策の現状調査、策定ワーキングや協議会の意見交換からみた、島田の文化芸術の姿を抽出

※→は関連の強い項目のみを結び付けています。

市内の文化芸術活動の偏り

1. 市民意識は、類似規模の都市と同様の傾向で、文化芸術に興味はあるが特に活動していない人が一定数いる。(市民意識調査)
2. 介護や子育てなどで文化芸術に関わる機会が失われている。(市民意識調査)
3. 活動団体の高齢化・固定化と担い手不足が進行している。(ヒアリング)
4. Eスポーツなど若者中心の新しい文化芸術活動が把握できていない。(協議会)
5. 働き盛りの世代(40~50歳代)への訴求が必要。(策定委員会)
6. 地区の人や関係者だけが参加できる祭り・イベントが少ない(市民意識調査)
7. 文化施設、公民館等の公共施設で多くの団体が活発に活動している。身近な生活文化に関わる、昔ながらの習い事の活動が多い。(若者の参加が少ない。)(事務局)
8. 文化芸術を手段として活用した生涯学習や社会教育と市民の文化芸術活動との連携が図られていない。(事務局)

島田の市民風土の理解

9. 大井川により東西が分断されたイメージがあるが、人々が逗留したことで文化交流があった。(協議会)
10. 東海道と2つの宿場町があり、一つの市に東西両方の文化がある。(協議会)
11. 「島田らしい」と言えるような特産物はないが、東西や海と山の交易によって物産が豊富にあり、名物を作り出す必要がなかったのではないか。(協議会)
12. 文化団体が地区単位で活動しており、その個性や多様性が維持されている。(事務局)
13. 長い交流の歴史があり、おもてなしや奥ゆかしさ、外部の人を受け入れる懐の深さがあり、優れた文化の受容性が高いと考えられる。(協議会)
14. 日常の中にある生活習慣や景観等を文化芸術資源であると捉えることで、人が幸せになれるという説明が必要。(ワーキング)

文化芸術に関する企画を実現するには

15. リーダーがいない。(ワーキング)
16. 事業を企画しても、実現する能力がある人がいない。(ワーキング)
17. 多くのイベントを実施しているが、一過性なものになりがち。(協議会)
18. 専門家やアーティスト、コーディネーターがいて、実現したいこと(発信したいこと)を明確にすることが必要である。(協議会)

情報の伝達方法

19. 文化芸術活動をしな理由として、情報がないからが多い。(市民意識調査)
20. 文化芸術の情報伝達は、広報、回覧板、チラシ、口コミが多い。(市民意識調査)
21. 各分野のSNS等で情報発信しているが、枠を越えた情報の共有化が進んでいない。(ワーキング)
22. 情報発信ツールがアナログ主体で、若者などにあまり届いていない。(事務局)

事業者の文化芸術活動への支援

23. 地元の祭りなどへの資金支援を行っている事業所が多い。(事業所意識調査)
24. 事業者の地域貢献活動がお金のみの繋がりになっている。(事業所意識調査)
25. 事業者の文化芸術活動支援に関するメリットや、多様な支援の方法などの情報が不足している。事業者と支援が必要な文化芸術活動がうまく結びつけられていない。(ワーキング)

A. 誰もが身近に参加・活動できる環境づくり

ア、良質で多様な文化芸術に触れられる機会の提供
 イ、既存の活動への支援と市民文化祭の充実
 ウ、子供たちの文化・芸術に触れる機会の充実
 エ、子育て世代や介護をする人などが文化芸術に親しむきっかけづくり
 オ、若者の文化芸術活動の実態把握と支援
 カ、働く世代が文化芸術を楽しむ環境の整備
 キ、社会包摂につながる文化芸術活動の促進

B. 誰もが身近に参加・活動できる場づくり

ク、公共の文化施設の充実
 ケ、多様な人々がつながる文化芸術の集いの場づくり

C. 島田らしい文化の創出

コ、島田ならではの文化資源の継続的発掘
 サ、異なる分野と文化芸術を組み合わせた活用の検討
 シ、文化資源の背景にあるストーリーの提示
 ス、時代とともに変化する文化活動のあり方の検討
 セ、地域の文化資源をモチーフとした新たな文化芸術の創造

D. 交流による参加の促進

ソ、参加を促す(参加の動機づけ等)仕組みづくり
 タ、参加しやすい環境の整備
 チ、多様な人々の交流促進

E. 島田への愛着や誇りの形成

ツ、外部との交流による島田らしさの認識と発信
 テ、学校教育、社会教育との協働
 ト、歴史資源(文化財や伝統芸能)の保存と活用
 ナ、日常にある文化芸術や景観に価値を見出す

F. 人材の獲得・育成・活用

ニ、Iターン、Uターン、Jターンの促進
 ノ、文化を牽引するアーティストや専門家の定住や活動の受け皿づくり
 ネ、プロデューサーやコーディネーターの育成
 ノ、外部の専門家やアーティストの活用
 ハ、事業所・団体・大学との連携
 ヒ、人材バンクの整備と活用の促進

G. 情報の集約と発信力の強化

フ、情報の効率的な集約と市内外への発信
 ヘ、若者や情報弱者への伝達方法の検討
 ホ、情報集約と発信の仕組みづくり

H. 事業者・団体・イベントとの連携

マ、事業者への文化芸術活動の関わり方の促進
 ミ、事業者による支援のマッチングの場づくり
 ム、団体とイベントのマッチングの強化
 メ、従業員の文化芸術活動の支援
 モ、文化芸術活動支援の仕組みづくり

文化施設の機能性向上と役割の充実

26. 市内に大規模ホールがなく、代替施設となるおおりの中規模ホールは、設備が老朽化している。(島田市役所周辺整備基本構想)
27. 博物館などの立派な建物があっても活かさきれていない。(市民意識調査)
28. 多目的にゆるく使えるオープンスペースが不足している。(事務局)

文化資源の継続的な発掘と見せ方の工夫

29. 島田らしさを感じる資源は、大井川、蓬莱橋、SL、茶畑など。(市民意識調査)
30. 牧之原台地から眺める大井川と富士山の景観がすばらしい。(協議会)
31. 地元の地域資源に気づいていない市民が多い。(市民意識調査)
32. いつも同じ資源で目新しさが無い。(ワーキング)
33. 自然や歴史、お茶など、今あるものを大切にすべき。(協議会)
34. 近世から現代までの様々な交通機関がそろっている。(ワーキング)
35. ウォーキング、サイクリングでの周遊に文化的資源を組み合わせるとどうか。(ワーキング)
36. 文化財や資源は豊富にあるが、個々に存在しており、互いの関わりが見出せていない。(事務局)

インバウンドを意識して

37. 2020オリンピック・パラリンピック、2025大阪万博に、外国人を含めた多くの人が訪れる好機ととらえ、島田の文化の発信を行ってほしい。(ワーキング)
38. まちなかに観光客の姿がなく、空港のあるまちという空気が感じられない。(協議会)
39. 茶畑の風景や祭りなど、外国人にとって魅力的な資源が残されている。(協議会)
40. 観光客も地元の人も楽しみながら歴史を学べるとよい。(市民意識調査)

文化芸術による社会的課題への対応

41. 空家(古民家)、空店舗などが存在する。(ヒアリング)
42. 若年層は人口流出傾向にある。(ワーキング)
43. 空港が近いので、世界中から沢山の芸術家が集まり住まうまちになると良い。(市民意識調査)
44. WAC 藤枝(特別支援学校の卒業生のアート活動)を核にした障害者の芸術活動がある。人とコミュニティ、企業、店舗などをつなぐ力がある。(ヒアリング)
45. 島田市への移住の動機として、都市圏からの距離の近さ、景観、自然、色彩、人の受容性の良さなどがあげられる。(協議会)

人と人とのつながり

46. 活動をしな理由として、きっかけがないという人が多い。(市民意識調査)
47. 金谷宿大学のような身近な文化芸術活動から少しずつ人と人との繋がりが広がっていくと良い。(ヒアリング)
48. 子どもを巻き込むイベントを実施すると、親も参加する。(ワーキング)
49. 2019年度から地域の人が学校で教えるコミュニティースクールの導入を目指している。(ワーキング)
50. 新しいものとの出会いの場が必要である。(協議会)
51. 興味を持たせるのではなく、関わりを持たせて、楽しさを伝えることが重要である。(協議会)
52. 市民の何も無いというあきらめの意識を変えるには、外部からの視点による気付きが必要。(協議会)